様式1

令和8年9月2日

令和 7 年度分　指定管理施設の管理運営状況（年間）モニタリング評価表

1 施設概要

施設の名称	浦添市立内間児童センター
指定管理者名	株式会社　オフィスハート
指定期間	令和6年4月1日　～　令和11年3月31日

2 利用状況

利用月	利用者目標数	利用者数	利用率%
4月～9月	3,698	3,557	96.19
10月～3月	2,505	3,134	125.11
合計	6,203	6,691	107.87

3 収支の状況

	予算額	実績額	差額
収入			
指定管理料	15,963,800	15,963,800	0
利用料金	48,000	0	48,000
受取利息	0	0	0
収入合計（A）	16,011,800	15,963,800	48,000
支出			
人件費	11,900,000	11,633,334	266,666
外部委託費	1,425,000	1,745,507	-320,507
その他経費	2,686,800	2,090,391	596,409
支出合計（B）	16,011,800	15,469,232	542,568
収支合計（A）-B）	－	494,568	－

4 精算額　　494,568 円

5 自主事業

事業名	内容	利用者数
木育推進事業	発達段階に応じた木との関わりを大切にする木育推進事業として、乳幼児には木のおもちゃ、幼児・児童にはパズルやゲーム・ワークショップ等で、主体的に木と関わる活動へ段階的につなげている。木に触れることで得られる情緒の安定や感覚の発達といった木育の効果について、子どもの様子を観察・記録しながらエビデンスの蓄積に取り組んでいる。 この活動は、木育を推進し、木製品を扱ってきた弊社ならではのサービスであり、評価が高いため、引き続き注力して発展したい健全育成事業である。	6,691

子育てひろば「わくわく」出前支援	内間こども園の子育てひろばと連携し、毎月センターで出前支援を実施（10回・幼児50名/大人43名）。普段来館の少なかった未就学児親子の利用増と、保護者同士のつながりづくりにつながっている。	93
海のお魚プロジェクト	館内の海水槽で美ら海水族館の助言を得ながら沖縄の海の生き物を飼育し、生態への関心と命を大切にする心を育む（2021年からの継続）。	144
内間こども食堂	3センター合同で毎週200食（1センター100食）の弁当配食を実施（年間68回）。保護課やSSWと連携し、支援が必要な家庭との関わりの契機となっている。	2,667
こども食堂 地域交流	地域の民生委員と連携し、夏祭りや年越しそばを実施。季節行事を通じて地域ぐるみで子どもを見守る場づくりに取り組んでいる。	随時
ウサギ飼育事業	利用児童が餌やり・清掃など日々の世話を担い、責任感や命の大切さを学ぶ情操教育として継続している（飼育4年目）。	720
図書の日	毎月第3土曜は貸出を行わず館内の蔵書に親しむ時間を設定。紙の本に向き合うことで読書の楽しさと集中力を育てている（12回）。	228
太鼓クラブ	週1回、地域講師を招いて琉球太鼓を指導。芸術祭への出演を通じて表現力や達成感、郷土文化への誇りを育んでいる。	随時
梅シロップ・赤しそジュースづくり	旬を迎える6～7月に、仕込みの工程から子どもが主体的に関わる食育活動として実施。 炭酸飲料や甘いジュースに慣れたこども達と一緒に作る・飲む・健康意識を働きかける体験を行った。	60
児童センターフェスティバル	木育の一環としてコマ作り・マイ箸作り・木工体験の3ブースを展開し、本物の道具に触れる体験を提供し、親子共に大変好評だった。	42
プロジェクトマナティ	3センター合同で宜野湾海浜公園のビーチクリーンを実施し、環境への意識とセンター間の交流を促した。	33
2025年度メンバー創造事業 ギャラリースペースオープン （2月から）	子どもだけでなく、地域の方の作品を展示することを目的に、オープンスペースをスタート。作品が飾られる喜びが自己肯定感を高め、地域との交流を生んでいる。（地域からの新たな出展はまだなし）	随時
合計		10,678

6 指定管理者の分析（サービス向上の取組等）

当センターの自主事業は「木育推進事業」を中核に据えている。乳幼児期には木のおもちゃを通じて素材の温もりや感触を、幼児・児童期にはパズルやゲーム、ワークショップなど、発達段階に応じて主体的に木と関わる活動へと段階的に展開している。木に触れる体験が情緒の安定や感覚の発達に資するという視点に立ち、職員が子どもの様子を丁寧に観察・記録しながら、その効果をエビデンスとして蓄積していく姿勢を継続している点は、単なる遊びの提供にとどまらない当センターの特色である。年間延べ6,691名という多くの利用を得ており、定期的に来館する利用者も着実に増えている。

子育て支援の面では、内間こども園の子育てひろば「わくわく」との出前連携が大きな成果を上げた。月1回の出前支援には、普段から児童センターを利用する親子だけでなく初めて来館する親子も多数参加し、保護者同士のつながりづくりの場として機能している。とりわけ、これまで平日の来館が少なかった未就学児の親子の利用増加につながり、児童センター側からも「わくわく」を積極的に紹介するなど、両施設が相互に利用者を行き来させる相乗効果が生まれている。地域の子育て支援の充実という観点からも、今後さらに継続・発展させていきたい取組である。

食の支援は、当センターの自主事業の中でも特に社会的役割が大きい。賞味期限間近のマジックライスを活用した食事支

援から始まった取組は、現在では3センター合同で毎週200食（1センターあたり100食）を配食する規模へと発展し、当センターだけでも年間68回・延べ2,667名へ昼食支援を届けた。活動を通じて保護課やスクールソーシャルワーカー（SSW）との連携が深まり、不登校やネグレクトが心配される家庭との関わりのきっかけとなるなど、食支援を超えた福祉的な役割を担っている。2025年度には300万円の助成金を活用して長期休暇中の毎日配布を実現し、地域企業からの月1回の弁当寄付も得られるなど、外部の理解と支援の広がりも見られた。さらに、民生委員と連携した夏祭りや年越しそばのイベントは、食事の提供にとどまらず、支援が必要な家庭への見守りの輪を地域ぐるみで広げる場となっている。

体験活動も多彩である。海のお魚プロジェクトやウサギ飼育では、日々の世話を通じて生き物の生態や命の大切さに触れ、責任感や思いやりを育む情操教育を行っている。図書の日では、毎月第3土曜におもちゃの貸出を行わず館内の蔵書に親しむ時間を設け、3年の継続によって、普段は落ち着きの見られなかった児童が集中して読書する姿も見られるようになった。週1回の太鼓クラブは「おきなわ伝統芸能・若衆芸術祭」への出演を果たし、子どもたちが郷土の伝統文化への理解と誇り、舞台でやり遂げる達成感を得る貴重な機会となっている。これらに食育活動やフェスティバルでの木工体験も加わり、子どもの主体性・創造性・郷土愛を多面的に育む構成となっている。

総じて、木育を軸とした体験活動、食を通じた福祉的支援、地域・関係機関との連携という三つの柱がバランスよく機能した一年であった。今後は、増えつつある定期利用者へのさらなる働きかけや、関係機関・地域との連携をより実態あるものへと深めながら、施設の維持管理にも継続的に取り組み、子どもの育ちと地域の子育てを支える拠点としての役割を一層高めていきたい。

7 項目別評価表　　市評価年月日　　令和8年9月2日

指定管理者と市が評価する。　　（4:優良　3:適正　2課題含　1要改善）

施設の状況により、項目内容は変更する場合がありますが、25項目数は変更しない。

項目	維持管理に関すること（年2回以上） 【適正性】	自主評価	市評価
①	法令等を遵守しているか。	4	4.0
②	労働環境は適正か。	4	3.3
③	収入・支出の取扱は適正か。	4	3.5
④	年間事業計画のとおり業務を遂行しているか。	4	4.0
⑤	開館時間、休館等は適正か。	4	4.0
⑥	利用者の個人情報保護は適正か。	4	3.8
⑦	日常の事故防止、安全対策は適正か。	4	3.3
⑧	日常の清掃は適正か。	4	3.5
⑨	防犯・警備業務は適正か。	4	3.8
⑩	備品の管理は適正か。	4	4.0
⑪	施設の維持管理（修繕）は適正か。	4	3.3
⑫	危機管理体制（緊急時対応）は適正か。	4	4.0
⑬	施設の使用許可、使用料の減免は適正か。	4	3.5
⑭	利用者に対する接客や職員態度は適正か。	4	3.8
⑮	施設の維持管理に係る人員は適正か。	4	3.5
⑯	施設の定期保守点検は適切か。	4	3.5
16項目	小計	64	58.8

点数を記載する。

項目	経営等事務処理に関すること（年1回以上） 【効率性】	自主評価	市評価
①	適正な経理事務であるか。	4	3.8
②	省エネルギー等環境配慮に努めているか。	4	3.5
③	支出の減少を図る取組を行っているか。	4	3.5
④	職員の資質・能力の向上を図る取組をしたか。	4	4.0
4項目	小計	16	14.8

項目	【有効性】		
①	施設の設置目的が十分に達成できたか。	4	3.8
②	利用者の意見を把握するしくみが確立しているか。	4	3.5
③	協定は遵守しているか。	4	3.8
④	利用者の満足度はどうか。	4	3.8
⑤	地域のため貢献しているか。	4	3.8
5項目	小計	20	18.7
25項目	合計	100	92.3

8 評価基準

（前ページの25項目（年間）合計を100点満点とする。）

	評価点	評価内容
項目別評価	4	法令等を遵守し、計画された業務水準を超える指定管理者独自の取組を実施するなど、特に優れている。
	3	法令等を遵守し、適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準のとおり成果を上げている。
	2	法令等を遵守しているが、指定管理業務の一部に課題がある。
	1	法令等を遵守しておらず、改善の必要がある。又は年間を通じ計画された業務の水準を達成できなかった。

ここでの「法令等」とは、法令、条例、規則、協定書、仕様書、事業計画書等をいう。

	評価		評価内容
総合評価	A	優良	市の項目別評価がすべて3点以上、かつ90点以上である。中間評価の場合は、53点以上とする。
	B	適正	市の項目別評価がすべて3点以上、かつ75点以上90点未満である。中間評価の場合は、45点以上53点未満とする。
	C	課題含	市の項目別評価に2点が1つでもある。
	D	要改善	市の項目別評価に1点が1つでもある。

9 市の総合評価

評価	評価コメント
A	・概ね適正に管理運営されていることを確認した。自主事業を多く実施しており、特に木育推進事業は利用者も多く、地域の子育て世帯の満足度も高く評価できる。地域の民生委員との連携によるこどもを見守る場作り、行政やスクールソーシャルワーカーとの連携により不登校やネグレクト家庭とのきっかけづくり、夜間中学生の学習支援など、引き続き取り組んでもらいたい。 ・給与算出の根拠や、昇給基準等の運用状況については、明確性を確保する観点から必要な改善を図られたい。 ・施設屋上のアンテナ落下の危険性や屋上侵入口付近柵の経年劣化が確認された。人身事故につながる恐れがあるため、所管部署と協議の上、早急な安全対策を講じられたい。 ・当センターの強みでもある、木材を使った遊具や遊び、また建物の修復、管理などが専門の職員を配置することにより、施設修繕など丁寧に管理されている。また、地域の人材を活用した伝承文化の交流や遊びの提供など、施設ならではの特徴は、子どもたちにとって重要活動だと感じた。